

一番甘くなつてきたよ
 食べれどもよし
 つぶされどもよし
 干されどもよし
 木ねよう

開館10周年記念企画展

あなたのいのち、 わたしのいのち

2016年 9/13(火)~11/13(日)

休館日：第2・4月曜日（祝日の場合は翌日火曜日）

開館時間：9:00~17:00

入館料：大人500円 小中学生300円 幼児無料
※20名以上の団体、JAF会員証・障がい者手帳等お持ちの方割引有り

会場：芦北町立星野富弘美術館
〒869-5563熊本県葦北郡芦北町大字湯浦1439-2
Tel&Fax:0966-86-1600

URL:<http://www.hoshino-museum.com>

10/23(日)

9:30~

開館10周年
記念講演会 &
詩画合唱コンサート

講演会講師

聖生 清重 氏 (富弘美術館館長)

詩画合唱出演

熊本県立水俣高等学校音楽部

開館10周年記念企画展（第三回）

あなたのいのち、わたしのいのち

星野は、体育教師となってわずか3ヶ月後に、クラブ活動（器械体操）の指導中、第四頸髄損傷。首から下の自由を失います。

星野は、病室のベッドの上で、「天井を見ながら生きていくのだろうか」と思うと、たとえようのない寂しさに押しつぶされ、生きている価値すら感じられなくなってしまいます。ついには「次の朝には死んでいたいのに」と考えるようになります。しかし、どんなに願おうと、身体の中の器官は様々な困難を克服し、星野を一生懸命生かそうとします。

星野は、自身の努力でいのちがあるのではなく、「いのち」が星野を生かしてくれていることに気づきます。

「自分は今、やさしくて大きなものに生かされているんだ、死にたいなんて、いのちに申し訳ない、」そう思いました。「せっかく生かされたいのちです。しまい込まず、使い込んで良い味が出るまで、思い切り使っていきたいと思っています。」（『いのちより大切なもの』）

本展では、絶望の淵から這い上がり、絵を描き詩を書くことで再び生きる希望を見出した、星野富弘の「生かされたいのち」と自然界に息吹く「いのち」との共鳴が生み出した作品を紹介しします。ぜひご堪能ください。

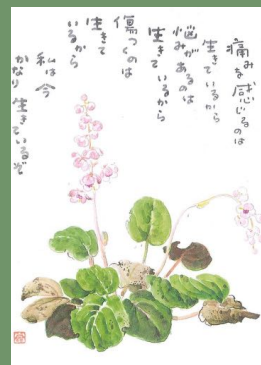


星野 富弘（ほしの とみひろ）

1946年群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）生まれ。群馬大学教育学部保健体育科卒。体育教諭になるも、指導中の事故により頸髄を損傷。入院中、口に筆をくわえて文や絵を描きはじめ。前橋で最初の作品展を開く。退院後、雑誌や新聞に詩画作品やエッセイの連載を始める。1982年高崎で初の「花の詩画展」を開催以降、全国各地、また海外でも開催され、現在も続いている。1991年群馬県勢多郡東村に村立富弘美術館（現みどり市立「富弘美術館」）開館。現在も詩画やエッセイの創作活動を継続中。



「いのち（おだまき）」



「生きているから（イチヤクソウ）」



「じしほり』」

開館10周年記念講演会&詩画合唱コンサート

日時：平成28年10月23日（日）9:30～

会場：芦北町もやい直しセンター（きずなの里）

【講演会】

講師：聖生清重（群馬県みどり市立富弘美術館館長）

演題：『不自由からの贈り物－星野富弘 その人と作品－』



聖生 清重（せいりゅうきよしげ）

1946年5月、群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）生まれ。小中高の時代を星野富弘とともに過ごす。東洋大文学部卒。元日本繊維新聞社編集主幹。2011年10月に群馬県みどり市立富弘美術館館長に就任。現在に至る。

【詩画合唱コンサート】

出演：熊本県立水俣高等学校音楽部

曲目：「ばら・きく・なずな」

「つばき・やぶかんぞう・あさがお」ほか



熊本県立水俣高等学校音楽部

1949年創部。第94回全国高校野球選手権大会大会歌「栄冠は君に輝く」収録。第33回全国豊かな海づくり大会開会式演奏。第38回全国高等学校総合文化祭出場。関ジャニ∞の仕分け高校生J-POP合唱選手権優勝。第82回全国学校音楽コンクール九州・沖縄ブロック出場。第74回九州合唱コンクール銅賞受賞。2016ひろしま総文（第40回全国高等学校総合文化祭）出場。定期演奏会ほか多数出演。



交通案内

●電車の場合

熊本▶新八代または八代（JR鹿児島本線）／約40分

新八代または八代▶湯浦（肥薩おれんじ鉄道）／約60分

新水俣▶湯浦（肥薩おれんじ鉄道）／約15分

湯浦▶美術館（徒歩）／約10分

※湯浦駅から美術館までは、案内看板を設置しています。

●お車の場合

芦北IC▶美術館／約10分

津奈木IC▶美術館／約15分

芦北町立

星野富弘美術館

〒869-5563

熊本県葦北郡芦北町大字湯浦1439-2

Tel/Fax.0966-86-1600

URL:<http://www.hoshino-museum.com>